

越後の植物観察記 (その4)

木村 彰

文中[]内は1:50,000 図金井式メッシュ(測地系はJGD2000)と環境庁メッシュ(Tokyo 測地系)であるが、稀産種については保護上の観点から後者を記していない。海拔は国土地理院『数値地図50mメッシュ(標高) CD-ROM 版』によっている。

I 帰化種, 国内帰化・逸出種

○ハマアザミ *Cirsium maritimum* Makino (キク科)

新潟市学校町通 2 m [新潟391376-12, 5639-60-93] (写真1:2006年8月30日)

新潟市役所に近い植込みに2株が咲いていた。伊豆以西に分布するアザミであり、県内に自生はないので、何らかの理由による移入と思われる。果たして新潟で定着できるのか興味深い。今年の記録の暖冬なら可能かもしれない。

○コモロスマイレ *Viola mandshurica* W.Becker f. *plena* Hort. ex F.Maek. (スミレ科)

新潟市上所 0 m [新潟391376-12, 5639-60-83] (写真2:2006年5月12日)

以前から昭和大橋の橋畔にスマイレ(マンジュリカ)があるのは認識していたが、これまで花を見る機会がなかった。昨年改めて見てみると半八重のコモロスマイレであった。逸出株と思われ、開放花で旺盛に結実する。

○イトツメクサ *Sagina apetala* Ard. (ナデシコ科)

新潟市学校町通 2 m [新潟391376-12, 5639-60-93] (写真3:2006年5月31日)

新潟市レッドデータブックの調査員の打ち合わせが5月21日、鷲ノ木新田で行われた際に見出されたもの(写真4)であるが、その後新潟市役所内でも確認した。生育状況は鷲ノ木新田と同様、コンクリート・ブロックやアスファルトの隙間にツメクサやアライトツメクサと混生し、両者が踏み付け圧により水平に臥している状況でも本種は斜めに立ち上がっていた。これまで気付かれなかっただけで既に広く侵入しているのかもしれない。同定に当たり植村修二氏、森田弘彦氏のご指導をいただいた。

○フウセンカズラ *Cardiospermum halicacabum* L. (ムクロジ科)

新潟市小杉 3 m [新潟391376-31, 5639-61-44] (写真5:2006年8月13日)

【新潟県植物目録(チェックリスト)(予報)維管束植物・コケ植物】に収録されていないが、しばしば逸出を見る。定着度は不明。上記地点では不燃ゴミが積み上げられた集積所に生育していた。

II 在来種

○アブノメ *Dopatrium junceum* (Roxb.) Buch.-Ham. ex Benth. (ゴマノハグサ科, 県:絶滅危惧II)

新潟市木津 4 m [新潟391376-31] (写真6:2006年9月9日撮影)

耕作田一角の作付け調整域に少数が生育していた。ミズワラビと同様、近年増加しているのかもしれない。

○オオアブノメ *Gratiola japonica* Miq. (ゴマノハグサ科, 県:絶滅危惧II)

新潟市小杉 2 m [新潟391376-31] (写真7:2006年6月25日撮影)

【レッドデータブックにいがた】には「以前は県内の水田の各所に生育していた」とあるが、『新潟県天産誌』や『越後の植物誌』には記載がなく、新潟市植物資料室でも整理済みの標本の中には県内産のものは該当がないとすることで県内における分布状況は不明である。文献記録では刈羽村西谷(柏崎の植物編集委員会編, 1981)や大阿賀橋上流(リバーフロント整備センター編, 2000)がある。今回の確認地点は後者の近く2地点であり、それぞれ散在している状況である。

○ヒメビシ *Trapa incisa* Siebold et Zucc. (ヒシ科, 県:絶滅危惧II)

阿賀野市瓢湖 7 m [新潟391376-41] (写真8:2006年10月14日撮影)

【レッドデータブックにいがた】には「県内の生育地は福島潟を最後に他では確認していない。最近福島潟で

も確認されず、絶滅した可能性がある」とあるものの、実際には近年の県内での生育報告があり、情報不足の感がある。瓢湖では従来から記録があり(尾崎, 1975), 湖岸から目視するだけでは植物体の識別は困難であるが、漂着する果実を見る限り現存しているようである。

○トチカガミ *Hydrocharis dubia* (Blume) Backer (トチカガミ科, 県: 絶滅危惧Ⅱ)

新潟市大迎 2 m [新潟391376-32]

新潟市灰塚 3 m [新潟391376-31] (写真9:2006年8月24日撮影)

新潟市新鼻 1 m [新潟391376-42] (写真10:2006年9月2日撮影)

新潟市内では通称「松浜の池」や吉江に現存する他、新川流域には広域且つ豊富に分布しているが、上記の地点を追加し、または現存を確認した。このうち、大迎では耕作田に殖芽か切れ藻が流入したらしく耕作田に生育していたもので、継続性に疑問があるが、周辺に供給源となった生育地がある可能性がある。灰塚では水路400mほどに点在していた。近くには旧市域版の新潟市レッドデータブックでは絶滅危惧Ⅰ類とされているウリカワ *Sagittaria pygmaea* Miq. の群生も見られた。新鼻では水路に沿ってかなり広範囲で生育していたが、隣接する福島潟では従来から記録されているものである。

○サジオモダカ *Alisma plantago-aquatica* L. var. *orientale orientale* Sam. (オモダカ科)

新潟市石動 2 m [新潟391376-32] (写真11:2006年9月16日)

新潟県内では上中下越・佐渡に広く分布しているようで、信濃川・阿賀野川では主に中流域に分布(西川・坪谷・荒井, 1978・リバーフロント整備センター編, 2000・2001)し、長岡市江陽では市街地にも見られる(FMIZUBE, 1999, 筆者は直近では2004年に現存確認)。環境庁・新潟県ともレッドデータブックにはリスト・アップしていないが、鳥屋野潟や福島潟では近年確認されないなど、新潟市域の平野部では減少傾向にあると思われる。上記地点では水路にごく少数が生育している。

Ⅲ 雑 録

○低海拔のヤドリギ *Viscum album* L. subsp. *coloratum* Kom.

阿賀野市新保, 保田, 久保, 六野瀬では点々と人家の庭木にヤドリギが寄生しているのが確認でき、黄実と赤実(アカミヤドリギ *f. rubroaurantiacum* (Makino) Ohwi) の双方が見られる。県内の分布図では最低海拔が阿賀野市大日原の60m(浅見, 1993)とあるが、保田の生育地は海拔15mであり、こちらの方が低海拔である。五泉市郷屋のミズバショウ公園近くにも生育しており、こちらは海拔37mである。東京では住宅地の植栽樹にも寄生しており、新潟県でももっと低海拔の分布があつてよいと思われる。

○やぐら型のニラ *Allium tuberosum* Rottler ex Spreng. (写真12)

【新潟県植物保護】の第40号で櫻井幸枝氏がやぐら型のニラについて紹介されているが、筆者も以前同様のものを見ているので紹介しておく。1997年11月に新潟市上所の路傍で見かけたもので、やがて草刈りされ、その後再生することはなかった。固定した性質ではなかったのであろう。この仲間にはヤグラネギやノビルをはじめ珠芽になるものが多いようで、【プラント第51号】には、やぐら型のタマネギやラッキョウが掲載されており、このうちやぐら型のラッキョウについては「花の後それを植えてみると珠芽は根をおろし、立派な株に成長した」とある。

○雑種アゾラ? *Azolla* cv. (写真13)

従来から園芸店やホームセンターの水草売場では雑種と思われるアゾラが漂っていたが、近年は屋外への逸出も報告されている。写真(2006年10月27日撮影)の見附市上新田町では商業施設の防火水槽を真っ赤に覆っていた。いわゆる大和型オオアカウキクサと *A. cristata* Kaulf. (仮称・アメリカオオアカウキクサ), *A. cristata* × *A. filiculoides* Lam. の交雑由来のものについては、外見での識別が困難で、葉の表面の突起の細胞数が識別点となるものの、確実に分類するには遺伝子分析しかないという(渡辺, 1997-)。このうち *A. cristata* は特定外来生物で栽培不可。新潟県ではオオアカウキクサが極めて稀産である上に、雑種アゾラは胞子ができないとされ、雑種アゾラによる遺伝子汚染の問題はないとしても、折り重なって盛り上がるほど水面を覆うため、野生化すれば在来競合種の生育に影響が出る危険がある。耐寒性については系統によって差があるようで、新潟市内でも屋外で越冬するものもある。もっとも除草剤には弱いとされており、除草剤使用頻度の高い新潟県では繁茂する心配はないのかもしれない。

○阿賀北のミズワラビ *Ceratopteris thalictroides* (L.) Brongn.

かつてミズワラビは県内では稀産とされたが、現在は県下各地から報告が増えている。阿賀野川以北においても、従来の記録は聖籠町網代浜の一地点だけであった(登坂, 1998・牧野, 2000)が、現在では確認地点が増え、筆者も2005年と2006年には内島見, 新鼻, 内沼湯, 大月, 上大月, 上堀田, 大久保, 十二の各地点でミズワラビを確認している。精査すればもっと増えるであろう。これは従来見落とされていたというより、実際に近年ミズワラビが増加しているためと思われる。

【参考文献】

- 米倉浩司・梶田忠(2003～) BG Plants 和名-学名インデックス (YList),
http://bean.bio.chiba-u.jp/bgplants/ylist_main.html
- 帰化植物メーリング・リスト(2002～), 連絡先 naturplant-admin@ml.affrc.go.jp
- 新潟県植物目録編集委員会(2005) 新潟県植物目録 [チェックリスト] (予報) 維管束植物・コケ植物, 植物同好じねんじょ会
- 新潟県環境生活部環境企画課(2001) レッドデータブックにいがた-新潟県の保護上重要な野生生物-
- 新潟市市民局環境部環境対策課(2005) 新潟市レッドデータブック-大切にしたい野生生物-,
<http://www.city.niigata.niigata.jp/info/kantai/RBDweb/top.htm>
- 中村正雄編(1925) 新潟縣天産誌, 中野財閥蔵版
- 野田光蔵(1968-1971) 越後の植物誌(I)~(IV), 新潟大学理学部生物学教室植物分類形態学研究室
- 柏崎の植物編集委員会編(1981) 柏崎の植物, 柏崎市教育委員会
- リバーフロント整備センター編(2000) 平成10年度河川水辺の国勢調査年鑑植物調査編, 山海堂
- リバーフロント整備センター編(2001) 平成11年度河川水辺の国勢調査年鑑植物調査編, 山海堂
- 尾崎富衛(1975) 瓢湖の植物, 福島潟・瓢湖自然環境総合調査報告書(総集編), 豊栄市・水原町
- 西山邦夫・坪谷富男・荒井ミキ(1978) 新潟県長岡市信濃川の川辺植物(第2報), 長岡市立科学博物館研究報告No13
- Nifty Serve FMIZUBE(1999) '99 新潟オフ(記録)
- 笹川通博・石沢進(1989) 新潟県福島潟の植物, 豊栄市・福島潟環境保全対策推進協議会
- 豊栄市立博物館(1977) 福島潟の植物-習俗への利用-
- 豊栄市立博物館(1976) 福島潟の植物
- 尾崎富衛(1975) 福島潟の植物, 福島潟・瓢湖自然環境総合調査報告書(総集編), 豊栄市・水原町
- 吉原正秀・西山邦夫(1966) 新潟県福島潟の植物, 長岡市立科学博物館研究報告No 4
- 眞保一輔(1934) 福島潟鬼蓮群落及び浮島, 新潟縣史蹟名勝天然紀念物調査報告第四輯, 新潟縣
- 山口紋之助・佐々理宣造(1912) 福島潟調査報告(第一回), 明治四十四年新潟縣博物調査, 越佐教育雜流社
- 鳥屋野潟植物調査会(1994) 鳥屋野潟植物調査報告書(植物相, 植生, 群落)
- 浅見賢(1993) ヤドリギ, 新潟県植物分布図集第14集, 植物同好じねんじょ会
- 櫻井幸枝(2006) ニラの奇形(2階ニラ), 新潟県植物保護第40号, 新潟県植物保護協会
- 寺分元一(1997) タマネギー主として鱗莖形成を中心に, 植物の自然誌プラント第51号, 研成社
- 南光重毅(1997) ラッキョウ, 植物の自然誌プラント第51号, 研成社
- 渡辺巖(1997～) アゾラ(アカウキクサ-Azolla)について, <http://www.asahi-net.or.jp/~it6i-wtnb/azolla.html>
- 環境庁自然環境局(2005) アゾラ・クリスタータ, <http://www.env.go.jp/nature/intro/L-syo-12.html>
- 登坂裕一(1988) ミズワラビ, 新潟県植物分布図集第9集, 植物同好じねんじょ会
- 牧野恭次(2000) 新潟県の羊歯植物誌, コーエイ印刷

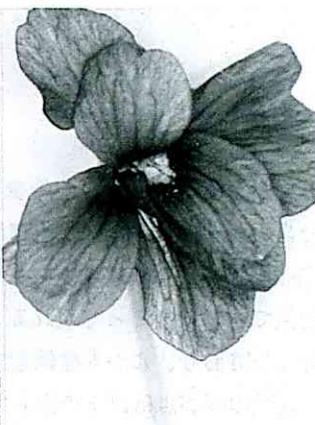
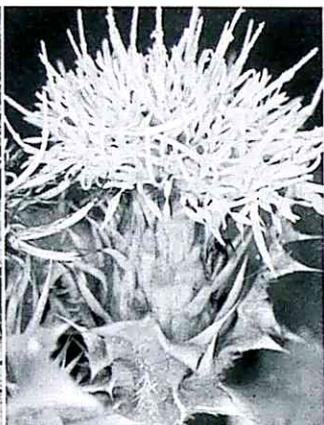
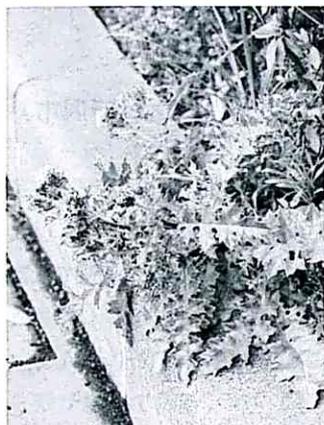


写真1 ハマアザミ

写真2 コモロスミレ

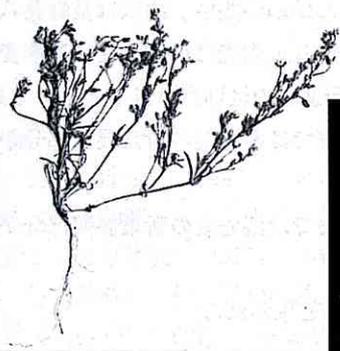
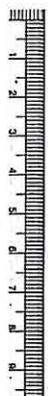


写真3 イトツメクサ

写真4 同果実



写真5 フウセンカズラ

写真6 アブノメ



写真7 オオアブノメ

写真8 ヒメビシ (上)

写真9 トチカガミ

写真10 トチカガミ

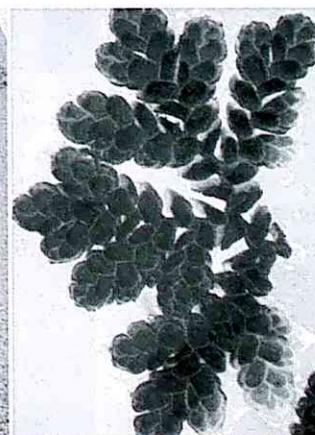


写真11 サジオモダカ

写真12 やぐら型のニラ

写真13 雑種由来と思われるアゾラ